

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名： 精華町

1. 平成26年度 行財政改革推進計画（行財政改革推進枠）について【総括表】

計画の概要等	これまでの取組	取組状況	本町の行財政改革の取り組みは、平成17年度の予算編成時に約10億円の収支不足により予算編成そのものに行き詰った中で、平成18年3月に10項目の改革の柱と目標を取り組みの中心とした行財政改革の推進のための「改革プログラム」を策定し、平成17年度から平成21年度の5年間で10億円規模の構造改善を図る行財政改革を実施した。平成22年度から平成24年度にかけては改革プログラムの取り組みを継続、平成25年度からは第5次総合計画の実施計画に沿った計画的な事業執行を図るなど、引き続き行財政運営の維持向上に努めている。
		成果	①財政構造改善の推進（効果額：8億7,000万円）・・・歳出削減、歳入確保など、②職員数の削減（効果額：1億7,600万円）・・・職員数の44人削減、給与構造改革など、③行政組織のスリム化・・・機構改革による事務の効率化、④民間委託の推進（効果額：2億1,000万円）・・・指定管理者制度の導入（病院、コミュニティホール）、⑤町有財産等の有効活用・・・未利用地の売却、土地開発公社の債務解消、⑥成長管理型の都市経営・・・人口急増による行政経費の増加の抑制、⑦企業誘致の促進による経済活性化・・・新規立地企業が累計24社の実現、⑧人材育成の推進・・・人材育成計画の策定、⑨職場の活性化、⑩「団塊世代」の大量退職への適切な対応
		問題点	改革プログラム策定当時、毎年10億円、5年で約50億円の赤字補てんにより、基金が枯渇することが懸念されていたが、取り組みの成果によって33億円の減少にとどめることができた。しかしながら、一般会計基金残高が30億円を下回るなど、依然厳しい財政状況が続いているため、今後も引き続き行財政運営規律の維持向上に努める必要がある。
	今後の取組	中・長期的な市町村の課題	精華町第5次総合計画第1期実施計画の実現に向けて、25年度から27年度までに重点的に取り組む政策課題の実現のための財源確保や、公共施設の老朽化対応など。
		中・長期的な市町村の取組目標	「選択と集中」の強化、積極的な収入の確保、徹底的なコストの削減等による財源確保を通じた重点化政策の実現。公共施設の適正な維持管理の実施。
		目標達成に向けた具体的な取組	公共施設等総合管理計画の策定、交通安全灯のLED化によるライフサイクルコストの低減、簡易水道の上水道への統合、公共施設の長寿命化対応などに取り組む。

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名： 精華町

平成26年度行財政改革推進計画に伴う事業実績による行革効果について			
事業名・実施項目	取組実績の概要	主な実績数値（出来高数値等）	行革効果（単位：人・千円等）
公共施設等総合管理計画の策定	我が国において、公共施設の老朽化対策が大きな課題となっており、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることも踏まえ、早急に公共施設等の全体の状況を把握することが求められている。本町においても、長期的な視点から、所有する公共施設を対象に、更新・長寿命化などを計画的に行い、財政負担の軽減や平準化を図るための計画策定を行う。	公共施設等更新費用の推定と計画案骨子の作成	22,500千円/年
地域福祉センターかしのき苑長寿命化工事設計業務	精華町地域福祉センターかしのき苑は、精華町における総合的な地域福祉と地域間の交流・ふれあいの拠点であるが、平成5年4月の開館から20年を経過しており、建物・設備等の老朽化が進んでいる。昨年度に改修計画を策定しており、今年度は、特に経年劣化の進行している防水及び外壁の改修工事についての実施設計を行う。	長寿命化工事設計を実施	13,123千円/年
精華町国民健康保険病院長寿命化工事設計業務	精華町国民健康保険病院は、建設から32年が経過し、随所の老朽化が進んでいる。特に、本館においては一部漏水が発生しており、現在漏水が発生していない部分についても既に防水機能が失われつつあり、早急な対応が必要となっていることから、本年度は防水改修工事のための詳細設計を実施する。	長寿命化工事設計を実施	15,143千円/年
下粕ポンプ場長寿命化工事	大雨時の内水排除等、浸水被害の軽減に不可欠な施設である下粕ポンプ場について、長寿命化に向け、その前提となる落雷対策工事を実施する。	落雷対策工事を実施	21,460千円/5年

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

精華町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について

支援区分		事業名・実施項目	
行財政改革推進枠		公共施設等総合管理計画の策定	
事業着手前			
課題・現状	我が国において、公共施設の老朽化対策が大きな課題となっており、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることも踏まえ、早急に公共施設等の全体の状況を把握することが求められている。本町においても、長期的な視点から、所有する公共施設を対象に、更新・長寿命化などを計画的に行い、財政負担の軽減や平準化を図るための計画策定を行う。		
事業概要	長期的な視点から、本町が所有する公共施設を対象に、更新・長寿命化などを計画的に行い、財政負担の軽減や平準化を図るための計画策定を行う。		
期待される事業効果等	適切な維持管理、維持更新時期の見直し等を行うことで、財政負担の軽減と平準化を図りつつ、資産の適正な所有、利活用、維持管理を行うことが可能となる。		
事業実績			
取組状況	公共施設マネジメント計画策定に係る指導助言業務を監査法人に委託し、公認会計士による専門的な視点からの指導・助言を受けながら、公共施設総合権利計画の策定を進めた。		
主な実績数値 (出来高数値等)	公共施設等更新費用の推定と計画案骨子の作成		
期待される事業効果等 に対する達成状況	—	(左の理由)	予定通り策定作業を進捗させることができたが、計画の完成は平成27年度となるため。

行革効果

行革効果の考え方

本町の直近10年間における公共施設全体に係る建設・維持管理等経費の平均は年間約4億5千万円である。各施設について、建替え周期を現行の平均40年から50年へと延長して設定し、そのための経済的かつ効果的な保全措置を講ずることにより、公共施設全体のライフサイクルコストの5%削減を図る。

①計画策定による保全措置実施前経費(各年度) 450,000千円

②計画策定による保全措置実施後経費(各年度) 427,000千円

年度毎の効果額 = ① - ② = 22,500千円/年

年度	H26	H27	H28	H29	H30				
行革前(a)	450,000	450,000	450,000	450,000	450,000				
行革後(b)	450,000	450,000	427,500	427,500	427,500				
行革効果(a)-(b)	0	0	22,500	22,500	22,500				

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

精華町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について

支援区分		事業名・実施項目	
行財政改革推進枠		地域福祉センターかしのき苑長寿命化工事設計業務	
事業着手前			
課題・現状	<p>精華町地域福祉センターかしのき苑は、平成5年4月の開館から22年目を迎え、建物・設備等が老朽化し、更新時期を迎えており、平成25年度に改修項目を洗い出し改修計画を策定した。 特に経年劣化の進行している防水及び外壁の改修について、優先的に事業を実施する必要がある。</p>		
事業概要	<p>地域福祉センターかしのき苑の防水及び外壁の改修に向けた詳細設計を実施する。</p>		
期待される事業効果等	<p>昨年度策定した改修計画に則り、防水及び外壁の改修による長寿命化を行うことにより、改修を行わなかった場合と比較して、施設建替えまでの期間が延伸できるとともに、各年度における維持修繕費用を削減し、ライフサイクルコストの低減を図ることができる。</p>		
事業実績			
取組状況	<p>地域福祉センターかしのき苑の防水及び外壁改修設計の外部委託を行った。</p>		
主な実績数値 (出来高数値等)	<p>長寿命化工事設計を実施</p>		
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	<p>計画的な改修により、建物の長寿命化とライフサイクルコストの低減が図れるため。</p>

行革効果

行革効果の考え方

地域福祉センターについて、建替費用は1,093,675千円、残存年数29年(鉄筋コンクリート建築物の耐用年数を50年と想定)であり、延命後残存年数40年(見込み)とする。

①改修を実施しなかった場合(毎年5,500千円の修繕費(H26は実績額:4,500千円)が発生する想定)
 $(158,500千円 + 1,093,675千円) \div 29年 = 43,178千円/年$

②改修を実施した場合(防水・外壁改修費に加え、毎年2,000千円の修繕費が発生する(H26は実績額:4,500千円)想定)
 $(108,530千円 + 1,093,675千円) \div 40年 = 30,055千円/年$

各年度効果額 = ① - ② = 13,123千円

年度	H26	H27	H28	H29	H30				
行革前(a)	43,178	43,178	43,178	43,178	43,178				
行革後(b)	30,055	30,055	30,055	30,055	30,055				
行革効果(a)-(b)	13,123	13,123	13,123	13,123	13,123				

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

精華町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について

支援区分		事業名・実施項目	
行財政改革推進枠		精華町国民健康保険病院長寿命化工事設計業務	
事業着手前			
課題・現状	精華町国民健康保険病院は、建設から32年が経過し、随所の老朽化が進んでいる。特に、本館においては一部漏水が発生しており、現在漏水が発生していない部分についても既に防水機能が失われつつあり、早急な対応が必要となっている。		
事業概要	精華町国民健康保険病院について、防水改修工事のための詳細設計を実施する。		
期待される事業効果等	躯体に影響を及ぼす恐れの大い漏水への対応を進めることにより、長期的な維持管理経費の削減を図ることが出来る。		
事業実績			
取組状況	精華町国民健康保険病院の防水工事实施設計の外部委託を行った。		
主な実績数値 (出来高数値等)	長寿命化工事設計を実施		
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	計画的な改修により、建物の長寿命化とライフサイクルコストの低減が図れるため。

行革効果

行革効果の考え方

国民健康保険病院について、建替費用は552,527千円、残存年数18年(鉄筋コンクリート建築物の耐用年数を50年と想定)であり、延命後残存年数28年(見込み)とする。

①改修を実施しなかった場合(毎年10,000千円の修繕費(H26は実績額:1,272千円)が発生する想定)
 $(171,272千円 + 552,527千円) \div 18年 = 40,211千円/年$

②改修を実施した場合(改修費に加え、毎年5,000千円の修繕費(H26は実績額:1,272千円)が発生する想定)
 $(149,252千円 + 552,527千円) \div 28年 = 25,063千円/年$

各年度効果額 = ① - ② = 15,143千円

年度	H26	H27	H28	H29	H30				
行革前(a)	40,211	40,211	40,211	40,211	40,211				
行革後(b)	25,068	25,068	25,068	25,068	25,068				
行革効果(a)-(b)	15,143	15,143	15,143	15,143	15,143				

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

精華町

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について

支援区分		事業名・実施項目	
行財政改革推進枠		下粕ポンプ場長寿命化工事	
事業着手前			
課題・現状	下粕ポンプ場については、大雨時の浸水被害軽減に不可欠な施設であるが、老朽化が進んでいるとともに、近年の異常気象による落雷による機械類への被害も発生し、修繕費用が経常的に発生している状況である。		
事業概要	下粕ポンプ場の長寿命化に向け、本年度は落雷対策工事を実施する。		
期待される事業効果等	落雷対策工事を実施することにより、近年の異常気象による機械類への被害を最小限に抑えることができるため、長期的な維持管理経費の削減を図ることが出来る。		
事業実績			
取組状況	大雨時の内水排除等、浸水被害の軽減に不可欠な施設である下粕ポンプ場について、長寿命化に向け、その前提となる落雷対策工事を実施した。		
主な実績数値 (出来高数値等)	落雷対策工事を実施		
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	工事の実施により、落雷の被害を未然に防止し、修繕費用の削減を実現できたため。

行革効果

行革効果の考え方

①落雷対策工事を行わなかった場合の修繕費用
 $6,181\text{千円} \times 5\text{年} = 30,905\text{千円}$

②落雷対策工事を行った場合
 $2,700\text{千円} + 1,349\text{千円} \times 5\text{年} = 9,445\text{千円}$

5年間における修繕費用総額 = ① - ② = 21,460千円

年度	H26	H27	H28	H29	H30				
行革前(a)	6,181	6,181	6,181	6,181	6,181				
行革後(b)	4,049	1,349	1,349	1,349	1,349				
行革効果(a)-(b)	2,132	4,832	4,832	4,832	4,832				